

会 議 録

1 会議名

平成30年度第7回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成30年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成30年9月11日（火）午後6時00分から午後6時29分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、
青山義一、磯田一裕、伊藤邦雄、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、
小林克美、坂井芳美、田中美佳、田村雅春、中澤武志、町屋隆之、
丸山朝安（欠席2名）
- ・ 事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、千田主任

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・ 挨拶
- ・ 会議録の確認：田村委員、中澤委員に依頼

議題【協議事項】平成30年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.1「平成30年度 直江津区地域活動支援事業（追加募集）提案書 受付一覧」に基づき説明

本日は、提案者からの回答を踏まえ、次回開催予定の採択審議に向けた協議をお願いしたい。

【青山恭造会長】

それでは提案No.1から順に協議していきたいと思う。

- ・「No.1 直江津小学校区地域安全・防災教育推進事業」については質疑なし

次に「No.2 認知症にやさしい地域づくり in 直江津事業」についてだが、当事業は直江津区だけではなく、上越市内で開催される。次年度も提案されるなら直江津区以外でも提案していただきたい。

【滝澤センター長】

当提案は、直江津区を対象に講演会を開きたいという提案内容である。RUN伴の開催時に合わせてリーフレットを配り、認知症に対する理解を直江津区に広げたいということである。

他区で講演会を行うのであれば開催される区に申請をすることになる。

【青山恭造会長】

承知した。

次に「No.3 なおえつ和太鼓フェスティバル事業」について、質疑を求める。

【田村委員】

鼓童の出演者が5人ということだが、交通費や音響機器代等の明細が全く分からない。

【町屋委員】

例えば提案団体が講師を呼んだ場合、講師に対しての旅費や交通費を提案団体が出すが、当提案の場合、鼓童側から一式全て込みの値段で提示されている。それは通例上、有りなのではないか。提案者側が用意するものに関してはきちんと費目に記載されている。

【田村委員】

だが、公的資金を使っている以上、明細を出すのが当たり前なのではないか。

【中澤委員】

芸能関係は千円単位で切り上げや切り下げを行って請求している。積算基準も設けて

おり、それを積み上げて契約の段階で金額を決めているため食費や交通費等全て込みで契約をしている。それが慣例だと思うので仕方ないのではないのか。

【田村委員】

承知した。

【増田副会長】

私たちが気にしておかなくてはいけないことがある。質問票の「会場設営費が随分と掛かるようですが、そこまでかけてでもこの会場で開催する意義をお教えてください」という質問に対し、「これらの鉄道資産を交通事業と異なるイベント開催を目的として使用することで話題性をつくり、当イベントに大勢を誘引して新たな賑わいを創出するほか、直江津地区の活性化策の一つとして、同資産の今後の有効活用策を検討する機会とするためです」という回答をいただいている。何年か前に鉄道資産の有効活用のために地域活動支援事業を利用したいと提案された団体があるが、一団体だけで取り組む問題ではなく市全体で取り組む問題なので、その際は不採択にした。

提案団体の方たちもいずれ有効活用について考えたいというようなメッセージを出していると理解している。我々も今後、鉄道資産の有効活用についての問題が出てくるのではないかと覚えている。我々も今後、鉄道資産の有効活用についての問題が出てくるのではないかと覚えている。我々も今後、鉄道資産の有効活用についての問題が出てくるのではないかと覚えている。我々も今後、鉄道資産の有効活用についての問題が出てくるのではないかと覚えている。

【町屋委員】

協議している趣旨とは違うかもしれないが、市民の機運や盛り上がりに対して、コンセンサスとして「鉄道のまち直江津」を盛り上げていこうというまちであれば、どれだけお金が投入されてもコンセンサスは得られると思っている。ただ、全体の機運がない中で一団体だけが一所懸命活動していて、そこにお金を投入するということが果たして全体の利益の中のどれくらいに適うものなのかということを考えてしまう。直江津区としてどのような優先順位を付けていくのかということの中で「鉄道のまち」というのはどれくらいの順位になるのかが不明確である。そして、優先順位は皆さんの捉え方によっても違ってくる。

これから先、同じような案件が出てくると思うので、時間があるようなら議論する時間があっても良いのではないかと考えている。このような内容こそ「直江津まちづくり構想」に繋がっていく問題だと思っているので、増田副会長がおっしゃったことは大事だと思っている。

【磯田委員】

増田副会長がおっしゃった意見は背景としてあると思うが、町屋委員がおっしゃったコンセンサスが得られていないから良いのか、悪いのかという話になると、地域活動の一環で住民団体の方々が市民に提案したり、社会実験を通して市民の反応を見たり、気付かされたりということがあられると思う。全ての事業に対してコンセンサスが得られていれば提案する段階で悩む必要はない。提案内容の精査や実施する意義について、どれだけ考えられているのかということ判断すれば良いのではないかと考えている。

背景や審査の中で議論しておかないといけないことは、この場で議論していくべきだと思っている。

【青山恭造会長】

ほかに意見等がないので次へ進める。

・「No.4 句碑文学碑の銘板取替整備事業」について質疑等がなかったため終了とする以上の協議を踏まえ採点していただき、14日正午までに事務局へ提出していただきたい。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

・次回協議会：9月18日（火）午後6時から

【滝澤センター長】

現在、自主的審議事項に関する協議が進んでおらず、次回協議会の際に時間があれば進めたいと思っている。現段階でどこまで話し合いを進めてきたかを資料で示させていただき予定である。

ほかにも旧直江津銀行に対する諮問が入ってくる予定である。そのあたりも含めながら自主的審議事項について話し合いをしていただきたい。

そして、例年、視察研修を行っている。自主審議での意見等も踏まえ、何か案があれば出していただきたい。

【青山恭造会長】

ほかに何かあるか。

【田村委員】

直江津学びの交流館の駐車場の件だが、JTの跡地を暫定的に使わせていただいていたが、本格的な工事が始まり使えなくなってしまう。現在建設中の建物ができるまで使えないということか。

【滝澤センター長】

担当課へ確認し、報告させていただく。

【増田副会長】

場合によっては駐車場の部分だけ早めに舗装し使わせてもらうこともできるかもしれない。

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。